

ウガンダ月報(2019年6月)

主な出来事

【内政】

- ウガンダにおけるエボラ出血熱の陽性患者の発生
- エボラ出血熱の陽性患者一家のコンゴ(民)への搬送
- サッカー・イベントに伴う警察からの注意喚起
- 国民健康保険制度の閣議承認

【外政】

- 経済・宇宙・技術協力に関するロシアとの連携
- ウガンダ政府による北朝鮮制裁措置の不履行に関する国連からの指摘
- ムセベニ大統領とゲブレイエスス WHO 事務局長の会談
- ムセベニ大統領の中国訪問

【経済】

- 東アフリカへの海外直接投資の拡大
- メートル軌道鉄道の復旧
- 4月の金輸出額の減少

【経済協力】

- EUによるエボラ対策支援

【日・ウガンダ関係】

- 日本NGO連携無償「コミュニティ・アクセス道路補修事業」の開通式

【内政】

- コンゴ(民)から帰国した5歳の男児がエボラ出血熱に感染していることがウガンダウイルス研究所(UVRI)での検査で判明した。この5歳男児は12日朝に死亡した。右患児の祖母(50歳)と弟(3歳)がエボラ陽性であることがUVRIの検査で判明し、両名はウガンダ西部のカセセ県ブウェラ病院のエボラ治療ユニットに隔離されていたが、50歳の祖母は12日午後4時に死亡した。(11日及び12日付ウガンダ保健省プレスリリース)
- 13日、コンゴ(民)のチームは、エボラ患者に「家族による支援と看護を受けさせたい」として、本人のインフォームド・コンセントに基づいて、最初のエボラ患者の父親、母親、エボラ感染が確認された3歳児、6ヶ月の息子及びメイドの5名をコンゴ(民)に搬送させた。ウガンダ保健省は、ウガンダは安全であることを改めて保証するとした。(13日付ウガンダ保健省プレスリリース)
- 6月21日から7月19日まで実施されるサッカーのアフリカ・ネイションズ・カップの国際試合が開催され、多くのウガンダ人がバーやクラブでこれを観戦することとなるため、ウガンダ警察は警戒を怠らないよう注意喚起した。2010年7月には、カンパラでサッカー・ワールドカップ

プの中継放送を観戦していた市民に対する、アル・シャバーブによる自爆テロ2件が発生している。(23日付サンデー・ビジョン紙)

- 24日、内閣は、18歳以上のウガンダ国民から保険料を徴収する国民健康保険制度(NHIS)を承認した。他方で、低所得者、障害者、高齢者、孤児、ストリートチルドレンといった人々については、保険料を課されることなく保健サービスを受けることが出来る。政府は、議会で可決され法案が成立すれば、全ての病院で無料の治療は段階的に廃止されるため、保険証を持たない者については保健サービスを受けられなくなると警告した。(26日付デイリー・モニター紙)

【外政】

- 4日、ムセベニ大統領は、経済・科学及び技術協力に関してロシア側代表団と会談し、鉱物資源、環境、農業、土地利用、国立公園、人的資源の開発等の分野での研究開発のための更なる努力を呼びかけた。6月12日、ロシアの国祭日レセプションの場で、ポリャコフ駐ウガンダ・ロシア大使は、「10月、ロシアのプーチン大統領は、ソチで開催される初のロシア・アフリカ・フォーラムにアフリカの指導者を招待する。このフォーラムの場で、ロシア・ウガンダ間で、原子力エネルギーの平和的利用、宇宙研究を含む様々な二国間協定が結ばれることとなる。ロシアは、ウガンダの宇宙技術研究センターの建設を支援することを約束している。」と述べた。(6日付及び13日付ニュー・ビジョン紙)
- 国連安保理からの要請にもかかわらず、ウガンダ政府は朝鮮鉱業開発貿易会社(KOMID)関係者から押収した現金の額や関連の銀行口座の情報を通知せよとの国連専門家パネルからの依頼に回答していない。昨年12月10日、専門家パネルは、北朝鮮がウガンダに小型兵器を供給しウガンダ特別部隊を訓練しているほか、在カンパラ北朝鮮大使館に引き続きKOMID関係者が留まっていると指摘している。専門家パネルは、昨年12月10日付の書簡で、ウガンダで北朝鮮が行った軍組織及び準軍事組織に対する訓練に関連するすべての契約書の写しや北朝鮮人要員が国外に退去したことを裏づける証拠書類の提出を要請したが、ウガンダはまだ回答していない。(9日付サンデー・ビジョン紙)
- 17日、ゲブレイェスス WHO 事務局長は、ムセベニ大統領と会談し、ウガンダがエボラ出血熱への万全の準備態勢を続けていること及びウガンダにおける村落レベルでのプライマリー・ヘルスケア支援の実施について、ムセベニ大統領に謝意を述べた。同事務局長は、エボラワクチンの接種によりエボラ出血熱の感染を97.8%防ぐことが出来、ワクチンがエボラ出血熱の拡大を封じ込める上で非常に有効であると述べた。(18日付ニュー・ビジョン紙)
- 25日、中国を訪問中のムセベニ大統領は習近平・中国国家主席と会談し、「習主席のリーダーシップの下でのこれまでの中国との協力を満足している。」と述べた。会談後、両首脳は両国の大臣が、生産性、経済・貿易措置、文化協力、無償資金協力、G77会議に関する5つの覚書に署名するのに立ち会った。ムセベニ大統領は、王毅・中国外交部長とも会談し、標準軌鉄道(SGR)建設及びその他の両国の関心事項について議論した。(26日付ニュー・ビジョン紙)

ョン紙)

【経済】

- UNCTADの2019年版世界投資報告書によると、2018年、東アフリカへの海外直接投資(FDI)は40億米ドルで、アフリカ大陸で最も多くのFDIが流入した。ウガンダへのFDIは67%増加し、13億米ドルという歴史的に高い額に達した。ケニアへのFDIは27%増加し16億米ドルに、タンザニアへのFDIは18%増加し11億米ドルとなった。2018年、主に、製造業、化学、接客業、石油・ガスなどの多様な産業に投資が流入した。今回のアフリカの成長は、商品需要及びそれに伴う物価の騰勢によるものである。(15日付イースト・アフリカン紙)
- ケニアは2019/20年度からSGR建設のための借款を償還することとなるが、モンバサーナイロビ間の高速鉄道運行が十分な収益を上げていないことから、この債務は支払困難となる可能性がある。運営開始初年でSGRは100百万米ドルの赤字を出した。貿易業者は料金の高さからSGRを利用することを躊躇している。ウガンダは、カンパラからケニア国境のマラバに至るメートル軌道鉄道の復旧に205百万米ドルを投じており、これにより、メートル軌道鉄道による輸送は現在の月量20,000トンから2026年には120,000トンにまで拡大すると予想され、SGRの将来性には疑問が生じている。(15日付イースト・アフリカン紙)
- ウガンダ中央銀行(BOU)によると、3月の輸出額が突出して大きかったことから、4月、ウガンダからの輸出額は約50%減少し以前の水準に戻った。3月の輸出額は604.4百万米ドルであったが、4月には307.6百万米ドルに戻った。数か月来、金がウガンダの輸出額首位であったが、金の輸出は3月の8,692kgから4月には2,198kgにまで減少した。エンテベを拠点とする金の取扱企業 African Gold Refinery(AGR)により、金の輸出額は増加してきたが、AGRによる金の密輸問題が指摘され、業績に影響が出た可能性がある。(20日付デイリー・モニター紙)

【経済協力】

- EUはウガンダのエボラ対策への緊急支援として250万ユーロの拠出を決めた。同支援は、エボラの迅速な検知及び対策のために利用される。スティリアニデス(Stylianides)人道支援・危機管理担当委員兼EUエボラ調整官は、「我々はエボラの拡散を防ぐために出来ることは全てやっている。今日の我々の任務はコンゴ(民)を支援するだけでなく、その周辺国であるウガンダ等も支援することである。」と述べた。(14日付ニュー・ビジョン紙)

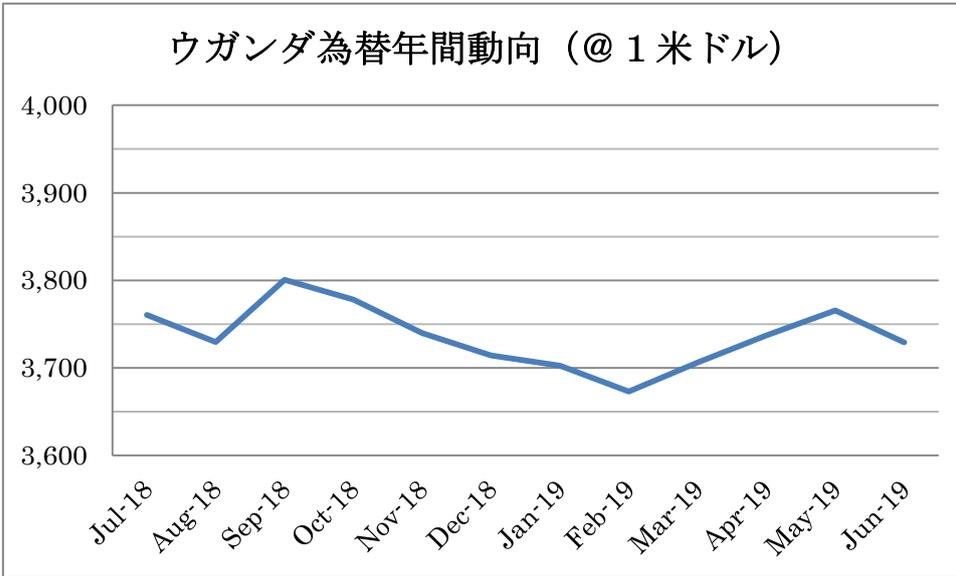
【日・ウガンダ関係】

- 21日、カンパラ近郊のワキソ県ナケッデ地区で日本NGO連携無償資金協力案件「現地の材料と地元の若者参加型で行う土のう工法を用いたコミュニティ・アクセス道路補修事業」の開通式が開催された。本案件を実施中のNGO・道普請人は、40名以上の若者にウガンダでは初となる土のうを用いたアクセス道路改修技術に係る研修を実施した。ワキソ県関係者

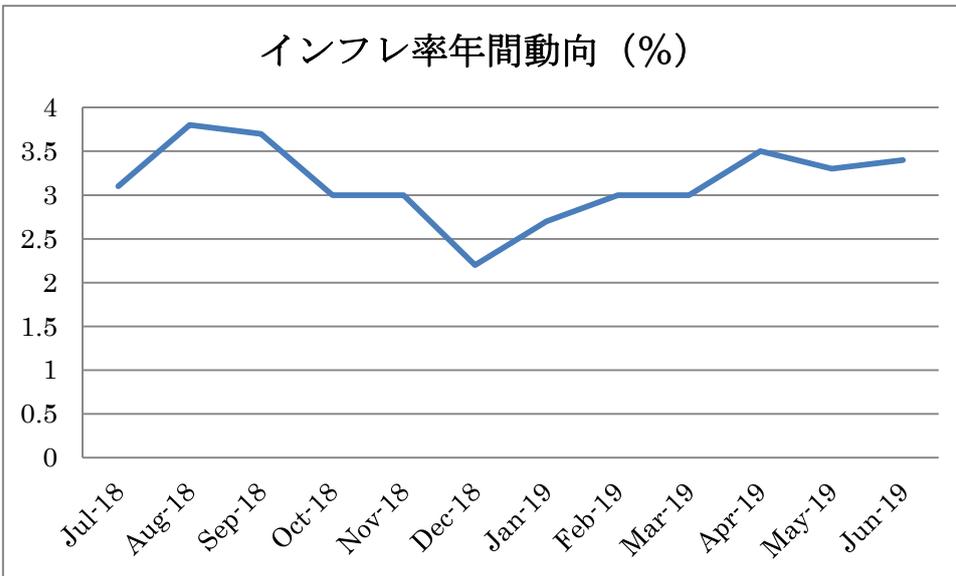
は、日本政府の支援に敬意を表するとともに、研修を受けた若者と緊密に連携しアクセス道路の改善を実施していくと述べた。(25日付ニュー・ビジョン紙)

(別紙)2019年6月主要経済指標(ウガンダ中央銀行)

・ウガンダ・シリング為替相場@1米ドル:3,729.0シリング(前月3,765.6シリング)



・インフレ率(前期比年率):3.4%(前月3.3%)



・政策金利: 10. 0%(前月: 10. 0%)

